

令和 6 年度

経済福祉常任委員会会議録

令和 6 年 1 0 月 2 8 日

福 島 町 議 会

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上、原稿校正は初校よりできなく、誤字、脱字がありましたら、深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、ご了承のうえご判読いただきたくお願いいたします。

福島町議会議長 溝 部 幸 基

令和6年度

経済福祉常任委員会

令和6年10月28日（月曜日）第1号

◎案件

(1) 調査事件6 第6次福島町総合計画の変更について

◎出席委員（5名）

委員長	佐藤孝男	副委員長	小鹿昭義
委員	平沼昌平	委員	平野隆雄
委員	溝部幸基		

◎欠席委員（0名）

◎委員外議員（2名）

議員	熊野茂夫	議員	藤山 大
----	------	----	------

◎出席説明員

副町長	小鹿一彦	企画課長	村田洋臣
産業課長	福原貴之	町民課長	深山肇一
福祉課長	佐藤和利	建設課長	紙谷 一
企画課係長	福井理央		

◎職務のため議場に出席した議会事務局職員

議会事務局長	鍋谷浩行	議会事務局議事係長	山下貴義
会計年度任用職員	熊谷治子		

○委員長(佐藤孝男)

おはようございます。

ただいまから、経済福祉常任委員会を開会いたします。

本日の調査事件は、調査事件6 第6次福島町総合計画の変更についてであり、資料等は皆様のお手元に配付のとおりでございますので、ご了承願います。

申し出がありますので、副町長のあいさつを行います。

小鹿副町長。

○副町長(小鹿一彦)

改めまして、おはようございます。

経済福祉常任委員会の開催にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

委員の皆様にはお忙しい中ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

本日は鳴海町長が北海道町村会の用務で札幌市へ出張中でありまして、私からあいさつを申し上げます。

本日の調査事件は、第6次福島町総合計画の変更についてでございます。

第6次福島町総合計画につきましては、今年度より第6次前期実施計画がスタートの年となっておりますが、今般の変更につきましては、この度のローリング作業に伴う事業計画の変更となっております。

なお、経済福祉常任委員会に関連した事業で変更となったものは10事業となっております、新規登載となったものはございません。

これから年末にかけて令和7年度予算編成作業が本格してまいりますので、年度末に向けさらに精度を高めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。

なお、詳しい内容はこのあと担当課長より説明をいたしますので、よろしくご審議くださるようお願い申し上げます。

以上で、経済福祉常任委員会の開催にあたってのあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長(佐藤孝男)

副町長のあいさつを終わります。

これより、調査事件に入りますが、まず調査の方法について説明いたします。

最初に資料の説明を受け、「不明な点や疑問な点」についての説明に対する質疑を行います。

質疑が終了した段階で、調査内容について説明員と意見交換を行います。意見交換終了後、説明員には退席をしていただき、休憩をとり、休憩中に論点・争点の整理を行い、概ねその整理した事項に基づき、委員間の意見交換や討議を行います。

その後、最終的な委員会意見のまとめをし、議長に提出することとなります。

以上、調査の方法等を説明しましたが、これにご異議ございませんか。

(「異議なし」という声あり)

○委員長(佐藤孝男)

ご異議なしと認め、そのように進めてまいります。

それでは、調査事件6 第6次福島町総合計画の変更についての調査に入りますが、あらかじめ調査内容について簡単にご説明いたします。

本調査事件につきましては、定例会9月会議において議決された第6次福島町総合計画「前期実施計画」について、町において行った令和6年度ローリング作業に伴い、事業内容に変更が生じたため、本日は変更となった内容等を調査するものです。

それでは、調査事件6 第6次福島町総合計画の変更についてを議題といたします。

内容の説明を求めます。

村田企画課長。

○企画課長(村田洋臣)

それでは、資料の3ページをお開きください。

調査事件6 第6次福島町総合計画の変更について。

1、変更の目的について。

令和6年度福島町議会定例会9月会議において議決された本計画について、令和6年度のローリング作業等に伴い変更が生じたため、第6次福島町総合計画前期実施計画の一部を変更するものであります。

2、前期実施計画（令和6年度から令和9年度）の変更について。

前期実施計画について、事業件数106件、総事業費47億3,710万円となっているものに、新規事業2件、事業費2,150万円を増額、変更の生じた16事業に係る事業費を1,300万円増額し、総事業費を47億7,160万円に変更するものであります。

なお、財源の主な内訳は国・道支出金が30万円の減額、地方債が1,170万円の増額、その他財源が5,580万円の増額、一般財源が3,270万円の減額となっております。

（1）総事業費等の変更についてですが、ただいまの説明を表にしたものでございます。

4ページの（2）変更区分の概要についてですが、それぞれ変更理由毎に整理した内容となっております。

5ページの（3）施策体系別の変更についてですが、こちらは基本方向の項目毎に整理した内容となっております。

6ページをお開き願います。

（4）事業費等に変更が生じた事業についてのうち、経済福祉常任委員会所管分についてご説明いたします。

事業名が産業振興資金貸付事業ですが、令和5年度より水産加工業者の加工原魚購入費用の一時的な支援として貸付枠を増額しておりますが、令和7年度以降も貸付枠を維持するため、令和7年度以後の3年間の事業費が4,770万円の増額となっております。

次に、水産物供給基盤機能保全事業ですが、北海道から福島漁港の機能保全事業に係る地元負担金の概算通知に伴い、令和7年度の事業費が670万円の増額となっております。

次に、吉岡漁港岸壁改良整備事業ですが、こちらも北海道から吉岡漁港の改良整備事業に係る地元負担金の概算通知に伴い、令和7年度の事業費が1千万円の増額となっております。

次に、農業用施設整備事業ですが、農業用共同利用施設を新たに整備する予定としておりましたが、既存の施設を購入して活用する方法に事業内容を見直し、令和6年度の事業費が500万円の増額、令和7年度の事業費が5千万円の減額となっております。

次に、青函トンネル記念館等屋外展示物解体撤去事業ですが、屋外展示物を解体し撤去する予定としておりましたが、撤去せずに維持管理する方法へ事業内容を見直ししたことにより、令和7年度の事業費が2千万円の減額となっております。

7ページをお開き願います。

次に、アニメツーリズム推進事業ですが、現在、女だけの相撲大会を題材としたアニメーション制作作業を進めているところでございますが、このアニメーションを活用した事業展開のため、令和6年度から令和9年度までの4年間の事業費が1,900万円の増額となっております。

次に、火葬施設機器更新事業ですが、機器更新計画の見直しにより、令和8年度以後の2年間の事業費が280万円の増額となっております。

次に、町営住宅長寿命化等事業ですが、令和8年度に予定しておりました長寿命化計画の策定を令和7年度に前倒ししたことに伴い、令和7年度の事業費が400万円の増額、令和8年度の事業費が800万円の減額となっております。

次に、橋梁長寿命化事業ですが、令和7年度に補修設計業務の追加、令和8年度に予定していた月崎2号団地1号橋の事業実施年度の見直しにより、令和7年度から令和8年度の事業費が390万円の減額となっております。

最後に、冬の生活支援事業ですが、総事業費に変更はございませんが、財源の見直しによる変更となっております。

以上で、第6次福島町総合計画の変更のうち、経済福祉常任委員会所管部分についての説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（佐藤孝男）

内容の説明が終わりましたので、質疑を行います。

冒頭申し上げましたように、質疑は「不明な点や疑問な点」の質疑といたします。説明員との意見交換は後ほど別に時間を設けておりますので、どうぞ協力をお願いいたします。

それでは、質疑を始めます。

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

青函トンネル記念館の屋外展示物解体撤去事業はやらないという風な感じで、事業費2千万減額しておりますけども、維持管理の今後の仕方というのはどういう風なことを考えているのかお聞きしたいなと思います。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

トンネル記念館の屋外の展示物の撤去の部分については、撤去ではなく維持という部分で内容を変更してございます。その内容につきましては、一つは「くろしお号」ここの部分のしっかりした整備、それと屋外に展示してあるオレンジ色の機械ですけど、そこの部分についても塗装等による維持を進めるということで検討することとしております。

内容につきましては、今年度、北海道大学の方にちょっとお邪魔しまして、今後の在り方という部分を十分協議したうえで、せっかくの歴史ある物であれば維持していく方で舵を切ろうということで大学の方とも話しております。

それで、これからの取り組みになりますけど、クラウドファンディング等を活用した資金調達による整備、こういう部分を進めていきたいという部分で現段階の方ではこういう状況になっておりまして、今後、北大さんと内容を詰めることとなっております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

7ページの「町の基盤整備の推進」の部分、変更がありますよね。橋梁長寿命化事業の部分の令和8年度分の変更の関係、これをもう一回、何か原稿と違った読み方をしているの、だと思うので、確認します。橋という風にしたんですよ、これは線になっているんですけども、橋の間違いなのか、原稿は線になっていますが。

○委員長（佐藤孝男）

村田企画課長。

○企画課長（村田洋臣）

すみません、原稿の方が線になっていますが、橋が正解ですので資料の訂正をお願いしてよろしいでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

いいですか。

委員外議員何かありませんか。

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

7ページの先ほど議長やった同じ部分なんですけど、令和8年度、9年度で事業費が280万アップ増額となっているのですが、この炉圧ダンバーこれ削除になっているのですが増額になっているのは、これはどのような形で280万上がっているのか。要は、削除になっている部分であっても、それでも増額になっているそのアレを説明いただきと思いますが。

○委員長（佐藤孝男）

深山町民課長。

○町民課長（深山肇）

令和8年度のその部分なんですけども、当初、排気ファンと炉圧ダンパーの方の2つの交換に、今回排気ファンの方の交換が入りましたので、その分で増額になっております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかにありませんか。

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

すみません。7ページの一番最後の方の地域生活を支える取組の推進というところで、この冬の生活支援事業について増額になっているんですけど、この内容的なものを教えてもらえませんか。

○委員長（佐藤孝男）

村田企画課長。

○企画課長（村田洋臣）

こちら総事業費に変更はございませんが、北海道の地域づくり総合交付金という補助金を活用して事業展開するということで、国・道支出金が150万の増、地方債が750万円の減、それに伴って一般財源が600万円増という形で、財源の見直しになっております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

（「なし」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

質疑なしと認め、質疑を終わります。

次に、説明員との意見交換を行います。

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

すみません、先ほどの冬の生活支援の事業なんですけども、これは財源振替ということなんですけども、600万円増額になっている状況になっているんですけども、そこら辺をもう一回教えてもらえれば。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿副町長。

○副町長（小鹿一彦）

ただいまの質問なんですけども、この冬の生活支援事業につきましては、以前、福祉灯油の冬の灯油の支給ということでスタートしております。その時も道の方から毎年50万円ずつ補助金出ておりました。

それで、その後、冬の生活支援事業ということで一人1万円というような形で支給するようになった段階で、過疎債のソフト事業というのがございます。それで、当町には今約5千万くらいの割当があって、その事業の中の一つとしてこの部分に地方債を毎年少しずつ財源充当しておりましたが、空家対策だとか子ども支援の関係、定住支援ですね、出産祝金だとかそちらの方にも過疎債ソフトというのが充当されておりますけども、だんだん年々、町に配分される過疎債のソフト事業枠が減ってきて、それで、地方債そのソフト事業をほかの方に振り分けて、空家対策とか定住対策も振り分けて、ここから冬の生活支援からは外して、道の補助金毎年50万円ずつ、それで200万円増で地方債の方がマイナス750万円になったということで、差し引き600万円が一般財源の方が増となっております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

私も勉強不足なのでよくあれなんですけども、福祉灯油の場合は一人1万円というのは前年度と同じということになるんですか。それとも、いくらか増額になるということなのでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿副町長。

○副町長（小鹿一彦）

福祉灯油自体は、18リッター缶4つで72リッターですかね。それを冬の生活支援事業という風に名目を変えて1人1万円をやっていました。それで、先般9月議会だったと思うんですけど、町長の方から今物価高騰だとかになって、この冬の生活支援1万円で足りるのかという質問もございまして、その中で

検討してまいりたいという風に答えておりますので、現段階でその予算はまだ1万円でございますが、今後、昨日選挙もありましたけども経済対策等出てくればその辺もちょっと見直しの対象に入ってくるのかなとは思っております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

6ページの先ほどの青函トンネル記念館前の屋外展示物ですけども、今課長おっしゃっているのは「くろしお号」それからほかの物もあるんでしょうけども、全部ひっくるめて屋外展示物とした考え方で、それに対する北大とのやり取りという風に捉えていいんですか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

おっしゃるとおりで、まずは「くろしお号」の話しでもって訪問させていただいたんですけど、全般的な部分も含めて今後残していくという部分で考えております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

今後クラウドファンディングを使って、価値観を共有して資金を何とか捻出するという事なんですけども、そのインシアチブ取るのは福島町ですか、北大ですか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

ここの部分は、どちらかというと我々町の方で主体的に、北大さんには支援していただく協力していただくという内容となっております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

確認しますけども、北大というか福島町がある程度権限を持ってクラウドファンディングの主体性で受ける側という形で取り組むということではよろしいでしょうか。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿副町長。

○副町長（小鹿一彦）

町長と福原課長の方で北大を訪問した際の報告を私も受けてますけども、この「くろしお号」の保存に関しては、調査に携わった人、それから青函トンネルに携わった人、それから北大の関係者とか関係者たくさんいるので、そういう方には思い入れもあるということで北大さんの方からクラウドファンディングを全国から広く集めれば、そういう思いの持った方々が賛同してくれるんじゃないかという一つのアイデアをいただいたということで、町単独で立ち上げるのもちょっと難しいかと思えますけども北大と協力しながらやっていくというような方向性を聞いております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

これはやはり今でも経年劣化している中であって、今ようやくその展示物の在り方というものを協議しだしたという状況の中で、このまま例えば資金が集まらない、それからそういう今副町長が思っているほど思いがないというような状況の中で、時間の経過とともに施設はだんだん古びていきますけども、町としてある程度そのクラウドファンディングの資金が集まるまでの維持管理というものは考えているのか、いないのか。安全対策を含めて、そこら辺の考え方というのはどうお持ちなのか。集まらなかったらやらないのか、それとも北大の方と内々にそういうファンディングの資金の面について話し合われているのか。そこら辺を詳しく教えていただければと思います。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

管理についてはクラックも発生しているという部分もありながら、必要最小限の部分はすみやかに対応していかなければならないという部分があると思っております。

それで、資金調達の部分も北大さんの協力なくしては出来ないという部分ありますけど、もしこれが資金が集まらないという部分もあるかもしれないし、クラウドファンディングも一応可能性の手法の一つだという部分で検討段階という部分になっております。

それとは別には、一応、歴史的なものであるということでデジタルで保存という部分は進めておりまして、デジタルアーカイブということで北大さんにちょっと協力してもらって、その保存は今作成最中という部分は進めております。

維持管理については、今ものがありますので、事故が無いよう適正に管理してまいりたいと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

その安全対策も必要なんですけども、私の言いたいのは、町としてその施設に対して維持管理していく気持ちがあるのか、ないのかということなんです。

クラウドファンディングをして資金が集まらなかったらデジタル版でその資料を残しているから、現在の屋外展示物はいいじゃないかというようなものの考え方を持っているのか。それとも、その施設自体に今全般で喋ったような関係者の思いがあるとするならば、その施設を町としてどういう風にするのか。

そこら辺はもうすっかり態度を決めた方がいいんじゃないですか。こういう風に思うんですけども、どうなんですか。例えば、使わないとか使うとか、もう古くなったから投げるとかというような感覚で今からいるのであれば、もう決断した方がいいと思いますよ。私は残したい方の側なんですけども。

ただ、施設を管理している方がはっきりしないと、どうにもならないですよ。このまま黙っていても朽ち果てていくわけですから、そこら辺の対応というのをやはり残すのであれば、きちっとしてもらいたいと思うんですけども、そこら辺の考えをまとめて、方向性を出してもらいたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿副町長。

○副町長（小鹿一彦）

当初ですね解体する方向で計画しておりましたが、今回このように計画を変更して保存の方に舵を切っておりますので、結論としては保存していくという方向に変わりはございません。

ただ、その間すぐ出来るまでの間、すぐ出来ないで維持保全には努めていくというような形でございます。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

平野委員。

○委員（平野隆雄）

7ページの上段、観光業の振興のところでアニメーション作成・公開という風なことで1,900万増額になるわけなんですけども、まずこれはイメージ的にどういう風なイメージを持って発注するのかとか、今までもこの質問が出たんですけども、きちっとした答弁ができていなかったような感じがするんですけども、その後何か変わったことがありますか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

今回の1,900万の増につきましては、令和6年度で200万追加、7年8年で700万ずつ、令和9年で200万、足すと1,900万となっております。

基本的には700万円の中身とすると、20分間のショートアニメを作るというのがほぼその予算の中

身となっております。

それで、今年度の令和6年度200万追加という部分は各アニメーションが動き出しますので、その関係ある所に等身大のアニメキャラの等身大パネルまたはポスター等を掲示して盛り上げるという状況で200万を追加させていただいております。7年8年については同じくショートアニメの続編ということで、3か年事業でアニメを展開していく。それで、令和9年度はその成果として観光に盛り上げていくという流れで事業費を盛り込んでおります。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

等身大のものというのは、ポスターみたいなもの、それとももう少し幅があって何て言いますか、前にもあったような横綱の人間が中に入ってやったものがありますよね。ああいう風なものをイメージしているのか、その辺のことも聞きたいんですけども。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

等身大の部分については、一応パネルということでイメージしておりまして、着ぐるみとかではないという状況です。

それで、施設の屋外におけるような等身大パネルを4枚、4枚というか主人公的なキャラ4人分のパネルを作成いたします。

○委員長（佐藤孝男）

平野委員。

○委員（平野隆雄）

そうすれば、外にも出せるという風なことですよね。そういう風なものは常時出していくのか、それとも、何かこういう大会があった時とかそういう風なものなのか、それともどこか施設の中にそのものを4枚あるわけですから、展示できるのかどうなのか、その辺も聞かせてください。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

イメージは屋外パネルとして展示でありまして、イメージは女相撲の時期を機会として、それ以降、常設のイメージで考えております。冬期間につきましては別となりますけど、要は観光施設とかにも置いたりするものですから、その状況も勘案しながら基本的には常時という部分で考えております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

6ページのトンネル記念館の屋外展示物の関係ですけども、これが初めて解体撤去の話しが提案された時に議論をして、私もまだ残すべきだろうと貴重なものなので、その段階で例えば、今は足を4本で支えていますよね。そこが相当その重量が重いものが負担になるということで、本体自体を長く維持するということであればその辺を低くして対応するとかの工夫をしてはどうかという話しをしたと思うんですけども、それらを含めて先ほど副町長の方から今後その検討に入るんだということですけども、クラウドファンディングをやるにしても、まずはどういう形態をするという形のなかで専門の方にその関係の設計といえますか、見積をしてもらうということが大事でないかと思うんですよ。

クラウドファンディングって簡単に言いますが、その規模の内容によっては非常に困難な状況みたいな例もあるので、ある程度どういうものを目指するかみたいなものはっきり明確にしたうえで、どのぐらいの予算で対応するかということを決めてかからないと、最初からクラウドファンディング簡単に考えるべきではないと思いますので、その段取りですよ。水産学部の方とも相談するというのは当然そうなんだという風に思うんですけども、意見を伺いながらどういう形で保持する、あまり負担にかからないように後々の維持管理に負担かからないような工夫をしながら考えるべきだという風に思いますので、そ

の方法で考えていくべきと思いますが、どうですか。

○委員長（佐藤孝男）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

先ほど平沼委員の方にも話したクラウドファンディング整備するにあたっての手法の1つという部分で認識しておりまして、それは北大さんとも共有した中身だったんですけど、議長おっしゃるとおり内容については、どこまでやるのかという部分も色々と協議していかなければならない。

それには設計も必要であるし、どのようにするという部分、目指すものという部分は必要かと思っております。それも含めてこの秋口に、もう秋ですけど、北大さんとは協議するという部分でお願いしておりますので、どの程度で進めるかという部分はこれから協議して最善の対策をしてみたいと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿副町長。

○副町長（小鹿一彦）

確かに議長おっしゃるようにクラウドファンディングというのは目標金額を設定して、この金額まで皆さんご協力くださいというのがあって、確かに見積なりいくら必要なのかというのをまずこっちが作らなきゃなりません。それで、クラウドファンディングに関しては絶対やると決めたわけじゃないんですけども、先ほど申し上げましたけど北大行った際に青函トンネルなり「くろしお号」に思い入れのある人いるから、やってみたら意外とそういう関係ある人から来るんじゃないのかなという1つアイデアをいただいたということでございます。

それに向かって、また北大さんと協議しながら、そして、並行して残すという風に決めた以上は、どのくらい費用が掛かるのか、どういう形がいいのかというのを今後探っていきたいと思っております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

私も最初に解体の提案された後、実際に現場行って見てみたんですね。間違いなく腐食は進んでいるので早期に対応しないと、特に今の段階でも例えば地震が来るとかそういった部分で重心がバランス的にとれなくて倒れる危険性も無きにしも非ずということなわけですから、あまり余裕をもって計画を立ててというような話でもないような気がするので、そういった部分の方向性みたいなものはある程度早く対応して決定して処置をしないと、全国各地で地震があるわけですから、そういった部分での危険性があるということも前提にして検討をしてもらいたいという風に思いますし、これはさっき副町長答弁しているので確認も込めて、これは当然維持していくという方向で、例えばクラウドファンディング云々ではなくて、それが叶わなくても自前でも維持していくということの確認でいいですよ。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿副町長。

○副町長（小鹿一彦）

そのとおりでございまして、クラウドファンディングで集めてやるということじゃなくて、それも1つの手法ということですけども、維持保存していくという風に方向展開した以上は、財源もそうですけどさまざまな財源も検討しながら、クラウドファンディングもその1つですけども町として残していくと。

先ほど産業課長からもありましたように、確かに議長も言うように足も細くてちょっとその部分が心配でしたけども、後ろのエンジン部分というんですかね、そこにクラック入っているものですからそれもちよっと心配なので、その辺も含めて早めに対応してみたいと考えております。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

7ページの先ほどの月崎2号団地の関係なんですけど、これは9年に変更したということでいいですか。

同じような今は橋ということであれば、そういうことなんですけども。その確認をします。

○委員長（佐藤孝男）

紙谷建設課長。

○建設課長（紙谷一）

9年ではなくて展望計画の方に變更してございます。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

展望計画ですね、この書いてあるとおりに變更したということですよね。わかりました。

それと、その下の冬の生活支援の事業で副町長の方から地方債の関係の現況を話したんですが、申し訳ないですがもう一回、地方債の現況との兼ね合いの部分でそれを振り返るということの話しだったと思うんですが、もう一回お願いします。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿副町長。

○副町長（小鹿一彦）

地方債に関しましては過疎債のソフト事業というのが各町に割当されております。当町は約4,800万弱ですけど今年度も、以前は倍まで使えたものですから1億近くあって、当町はどちらかというと早めにこの事業を使ってまして、定住対策だとか先ほども言いました乳児の関係だとか子育ての方にかなり充当してました。それが、やる町が多くなってきてだんだん枠が小さくなって、基本的な基本額しか来なくなって今は4,800万円くらいということで、その割当られたソフト事業を各事業に充当をかけております。そのなかでも空家対策だとか定住対策がだんだん大きくなってそっちの方に充当をかけて、こっちの方にはもともと道の方から毎年50万円、一応名目は福祉灯油分という冬の生活支援分という風に来てますので、少しでも財源あるところにはソフト事業をほかに有効に使いたいということで、今はこの事業から充当を6から外したというような状況でございます。

○委員長（佐藤孝男）

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

確認で、灯油も含めて物価高騰の対応ですので、住民の負担が大変だという風に思うんですね。これは展望計画も含めてこういう形で考えるという方向は継続するということでもいいということの確認をします。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿副町長。

○副町長（小鹿一彦）

これは町長の政策のなかで高齢者支援という形でやってますけども、現在は非課税の方々に1万円ずつ配っている事業につきましては、とりあえず計画上は展望計画も含めて継続していきたいというような形ですが、毎年、今はたまたまコロナ後に国からのさまざまなこういう風な似たような交付金が毎年来ています。そのバランスを考えながらですけども、基本的に逆に言うと、国の交付金も毎年あるとは限りませんので、町としてはこれは継続して行く方向で考えております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

平沼委員。

○委員（平沼昌平）

すみません、先ほどからちょっと議長も展示物の件について聞いているんですけども、そのなかで、ちょっとこれはどうなんだろうなという考えが今ちょっと出たので再度お聞きしますけども、副町長は今この屋外展示物について減額していますよね。金額を減額しました町では。この6次計画の中で。

けども、そのクラウドファンディングをやった中で資金を集める。集まらなかったらどっちかというところの保存の方向で町は考えるというような流れで間違いありませんよね。であるならば、クラウドファンディングの資金が集まってから、この減額してもいいんじゃないのかなという気がするんですけども、どうなんですか。そこら辺ははっきりした方がいいような気がするんですけど、集まるのがはっきり分かっているならここで減額してもいいですよ。集まるか集まらないか分からない状況の中で、まずは町の予算保存するという町の予算を減額しておいて、これはまた後で展望計画の中に入れるんですか。そこら辺の確認です。

○委員長（佐藤孝男）

小鹿副町長。

○副町長（小鹿一彦）

今回減額したのはですね、解体撤去にかかる費用でございます。この2千万円というのは。保存するまた新たに例えば足を切って下に下げるとか、別な方法の場合はまた金額変わってきますので、ただ、この項目は解体撤去事業じゃなく維持保全事業の方にもありますので、今回落とした分はあくまでもこの2千万というのは解体撤去にかかる費用でございまして、次に維持保全にする費用というのは今後算出したらまた新たに追加するような形と考えております。

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

委員外議員ありませんか。

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

先ほどの7ページの部分で、町の基盤整備の推進の火葬場のところで、変更前の令和6年度から9年度が1,870万で、変更後が2,150万ということで280万アップにはなっているんですが、この中で見ていったら令和7年度タッチパネル交換、オイル減圧弁交換で、8年度タッチパネル本体交換、そのあとに排気ファン、炉圧ダンバー交換となっています。令和9年度のところには炉内台車の交換と換気ファンが追加になって炉圧ダンバーが削除になっている。

先ほどの課長の説明であれば、排気ファンが入るから280万アップみたいな言い方されてますが、これって要は今の物価高騰とかによるものであって280万アップというような形なのか、それとも先ほど金額が高いからこれだけで280万アップになっているみたいな説明になっていましたが、その辺の説明をもう一度お願いしたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

深山町民課長。

○町民課長（深山肇）

火葬場の修繕に関しては、ちょっと同じようなものが複数出てきているんですけど、それぞれ火葬炉というものが2炉あります。それで、同時に修繕するわけではないので、例えばこの年度が令和7年度にタッチパネルの交換とありますけど、次の年にもタッチパネルの交換はありますけども、これは別々の炉の交換でございます。こういうもので毎年点検をやって、消耗が激しいものを優先的に直していく計画を取っております。

○委員長（佐藤孝男）

藤山委員外議員。

○委員外議員（藤山大）

先ほど課長が言ったのは排気ファンを交換するから金額上がるみたいな説明だったんですよね。それがどうしても、炉圧ダンバーの交換だけであれば、本来であれば減額じゃないですけど現状維持の1,870万で済むんじゃないかなと思ったんですよね。だからこの金額アップというのは1号基2号基の部分で次年度に交換するというのは分かるんですけども、280万アップというのはその内容をですね、先ほどの説明であれば、排気ファンが高いから上がるような説明になっていますので、だから僕が言ったのは今の物価高騰によるもので金額になっているのか、その辺の説明をもう一度だけお願いしたいと思います。

○委員長（佐藤孝男）

深山町民課長。

○町民課長（深山肇）

物価高騰によるものではなくて、そもそもの交換する部分が変更しているということでございます。

○委員長（佐藤孝男）

いいですか。

ほかに。

溝部議長。

○委員（溝部幸基）

今の藤山議員の関係なんですけども、これを見ると例えば濃くゴシックで対応している部分が新たに対応するという部分と考えていいんですよ。だから例えば令和7年にオイル減圧弁交換となっていますよね。これは追加したということです。追加した分の次の変更の内容の部分では令和8年から9年で280万の増ですよ。だから、この令和7年のオイル減圧弁交換という部分の対応の部分は何もここに書いていないということです。

だから、令和8年からの分ではタッチパネル本体交換と排気ファン交換が新たに出て、逆に炉圧ダンバー交換はやめますということです。そういう説明をちゃんとしなければ、そうなる。

今言った7年の部分というのは、そしたら増えた場合はどこになるんだという話しになる。令和8年から9年で280万の増額だけど、令和7年で増えた分はそのお金はどこに行くんだという事の説明はちゃんとしないと駄目だということ。分かる範囲で今のことを説明してください。

○委員長（佐藤孝男）

深山町民課長。

○町民課長（深山肇）

藤山議員の質問に対して、ちょっと明確な回答できないで本当に申し訳ございません。

それですね、ちょっと今は金銭的な部分のものの詳細な変更部分あるんですけども、詳細を持ってきておりませんので、確認したいと思います。

（「それは後で」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

ほかに。

（「なし」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

意見交換なしということで、意見交換を終わります。

以上で、調査事件6 第6次福島町総合計画の変更についての質疑及び説明員との意見交換を終わります。

説明員の方は退席をお願いします。

ご苦労さまでした。

○委員長（佐藤孝男）

それでは、調査事件6 第6次福島町総合計画の変更についての本委員会の意見の取りまとめを行います。

暫時休憩いたします。

（休憩 10時50分）

（再開 10時52分）

○委員長（佐藤孝男）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、調査事件6 第6次福島町総合計画の変更について、休憩中の「論点・争点の整理」を基に、問題点やその対応策などの討議や意見交換を行いました。

お諮りいたします。

ただいま議題となっております調査事件6 第6次福島町総合計画の変更についてに関する本委員会意見の取りまとめ及びその調整については、委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

ご異議なしと認め、調査事件6 第6次福島町総合計画の変更についてに関する本委員会の意見の取りまとめ及びその調整は、委員長に一任されました。

次に、3のその他について、何かありませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（佐藤孝男）

ないようですので、以上で、本日の案件を全て終了いたしました。
これもちまして、経済福祉常任委員会を閉会いたします。
どうもご苦労さまでした。

(閉会 10時54分)

福島町議会会議条例第157条の規定により署名する。

経済福祉常任委員会委員長 佐藤孝男